

J.S.Bach Sinfonien

バッハ シンフォニア

第 11 番 ト短調 BWV797

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、インヴェンションとシンフォニアについて	3
1. バッハ「シンフォニア」第 11 番 g moll BWV 797 楽譜	4
2. 主動機とその他の動機と装飾記号の演奏について	6
3. バッハ「シンフォニア」第 11 番 g moll BWV 797 第 I 展開部の楽曲分析と演奏法について	7
4. バッハ「シンフォニア」第 11 番 g moll BWV 797 第 II 展開部の楽曲分析と演奏法について	10
5. 楽譜にアナリーゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	13

■はじめに

2003 年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012 年に PDF 書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂き、パソコンの前で頭が下がる思いであります。

2019 年 3 月～2020 年 5 月、バッハ インヴェンション全 15 曲の全面作り直しを致しましたが、シンフォニアも同様に全面作り直しをする事と致しました。作る度に新たな発見などあり、このように音楽に向き合っている今に感謝しております。(2020 年 6 月)

■インヴェンションとシンフォニアについて

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (Johann Sebastian Bach 1685-1750) のクラヴィーア曲は、その大部分がケーテンの宮廷楽長時代 (1717~1723) に書かれました。インヴェンションとシンフォニア BWV 772-801 (*Inventionen und Sinfonien* BWV 772-801) も、「フランス組曲」「イギリス組曲」「平均律クラヴィーア曲集第 1 巻」などと共にケーテン時代に書かれた作品の一つとなります。クラヴィーア曲の多くは、教育目的として書かれました。バッハには、自身が「いずれも生まれながらの音楽家」と誇らしく語る息子たちがおり、とりわけ豊かな才能に恵まれていた長男ヴィルヘルム・フリーデマンの教材として「ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集 (*Klavierbüchlein für Wilhelm Friedemann Bach*)」(1720 年頃) が編まれました。この曲集の中に「インヴェンション」の最初の形が見出される事となります。そこでは、2 声の曲が「プレアンプルム」(*Praeambulum*)、3 声の曲が「ファンタジア」(*Fantasia*) と題されていました。その後、バッハはさらに改訂し、1723 年に配列も変え、題名も 2 声曲を「インヴェンツィオ」、3 声曲を「シンフォニーア」と改めました。

自筆浄書譜には次のような表題があります。

「クラヴィーアの愛好家、とりわけ学習希望者が、まず 2 声部をきれいに弾き分けるだけでなく、さらに上達したならば、オブリガートの 3 声部を正しくそして上手に処理し、それと同時に、すぐれた楽想を得るだけでなく、それらを巧みに展開すること。そしてとりわけ、カンタービレの奏法を身につけ、それとともに作曲の予備知識を得るための、はっきりした方法を示す正しい手引き。」

シンフォニアもインヴェンション同様に、曲集に採用されています 15 調は、ハ長調 - ハ短調 - ニ長調 - ニ短調 - 変ホ長調 - ホ長調 - ホ短調 - ヘ長調 - ヘ短調 - ト長調 - ト短調 - イ長調 - イ短調 - 変ロ長調 - ロ短調 と 嬰ヘ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く 15 調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット 4 つまでの調です。)

Sinfonia 11

Johann Sebastian Bach
BWV 797

The musical score for Sinfonia 11, BWV 797 by Johann Sebastian Bach, is presented in six systems. Each system consists of two staves, a treble staff and a bass staff, joined by a brace on the left. The key signature is two flats (B-flat and E-flat), and the time signature is 3/8. The notation includes various musical symbols such as notes, rests, accidentals, and fingerings. Fingerings are indicated by numbers 1-5 above or below notes. Some notes have slurs or ties. There are also some specific markings like 'tr' (trill) and '5 3' above a note. The score is written in a standard musical notation style with a grand staff (treble and bass clef) for each system.

2. 主動機とその他の動機と装飾記号の演奏について

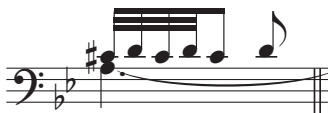
フーガ的な構成とは異なり、多声的手法による舞曲的な性格の優雅な曲です。この曲集の中で、異色な作品と言えると思います。

この曲は、主題と対旋律と言った対位法処理ではなく、主動機aを中心とした動機的材料により構成されています。曲の最初の8小節に、全ての動機が提示されています。

この8小節を主題と捉える事も可能と思います。

この曲の装飾記号は、9小節上声の *tr* と 24, 28小節中声の *~* のみとなります。(9小節上声は、版によっては *~* となっています。)

9小節上声は、 と演奏して下さい。

24, 28小節中声は、 又は、 と演奏して下さい。